

〔原著〕

看護学の学習初期の学生に保健婦の 家庭訪問援助事例を用いて伝えた「看護とは何か」

松下光子¹⁾ 森 仁実¹⁾ 坪内美奈¹⁾ 米増直美¹⁾
三浦一恵¹⁾ 大井靖子¹⁾ 岩村龍子²⁾ 石井康子³⁾
北山三津子⁴⁾

"What is Nursing ?" The Opinions about Nursing that Were Taught to Students at the Initial Stage of Nursing Education Using a Case in Home Health Nursing by a Public Health Nurse.

Mitsuko Matsushita¹⁾, Hitomi mori¹⁾, Mina Tsubouchi¹⁾, Naomi Yonemasu¹⁾,
Kazue Miura¹⁾, Yasuko Ohi¹⁾, Ryuuko Iwamura²⁾, Yasuko Ishii³⁾,
and Mitsuko Kitayama⁴⁾

要旨

「看護とは何か」を学びはじめたばかりの学生に保健婦の家庭訪問援助事例を用いて行った少人数教育で、看護について何を伝えることができたかを明らかにし、そのことを通し、保健婦活動を素材に伝える「看護とは何か」の考えを整理することを目指した。この授業は、保健婦経験のある教員が、学生が事例から感じ・考えたことを引出しつつ、教員自身の看護の考えを、実践経験を交え伝えた。

学生のレポートおよび教員の記録から、事例の保健婦の援助で学生に印象に残った場面とわかりにくかったところ、教員が考えを伝えるために取り上げた保健婦の援助と伝えたこと、学生が看護について学んだことを取り出し、分類整理した。

その結果、まず、対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法、援助における対象理解、援助関係・信頼関係づくりは、全教員8名が伝え、学生79名中各72名、40名、67名が印象に残った場面に、57名、49名、37名が学びに挙げた。援助計画の重要性、生活の営みに即した援助も2名が伝え、4名と20名以上が場面に、13名17名が学びに挙げた。次に、家族を単位とした援助に関することは、全教員が伝え、場面・学び両方に多くの項目が挙げた。他職種とのかかわりの大切さは、6名が伝え、53名が場面、14名が学びを挙げた。さらに、人数は少ないが、援助対象は住民すべてであること、保健婦活動の特徴として長期にわたる活動であることを教員に伝え、学生が学びに挙げた。潜在ニーズへの対応や活動環境をつくること、責任の重さも学びに挙げた。

以上から、看護職が対象とかかわる際に基本となること、家族、他職種、地域へと広がる援助の視野、看護職の責任性、自律性、社会的役割の拡大といった、看護の基本的理解として重要な項目を伝えたことを確認した。また、この時期の学生の看護を学ぶ力が確認できた。保健婦活動だからこそ伝えられる看護の基本は、厳しく問われる対象者との関係性、生活者である人間を支える広がりや厚みのある看護、社会の中で役割と可能性を広げる自立した専門職の姿と考える。

キーワード：学習初期、保健婦活動、家庭訪問援助事例、「看護とは何か」

-
- 1) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based fundamental nursing, Gifu College of Nursing
 - 2) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Nursing management, Gifu College of Nursing
 - 3) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing of children and child rearing families, Gifu College of Nursing
 - 4) 長野県看護大学 地域看護学講座 Community health nursing, Nagano College of Nursing

I. はじめに

本学のカリキュラムは、1年次前期から各領域の看護学概論が一斉に開講され、その後もすべて同時進行で学習が進む。各領域は、その領域の看護を伝えることを通して、「看護とは何か」を伝えることを求められている。

地域基礎看護学概論B（地域看護学概論）では、行政に所属する保健婦の活動を素材に「看護とは何か」を教授する一方法として、保健婦の家庭訪問援助事例を用いた少人数教育の授業を行った。事例の保健婦の援助から学生が感じたこと考えたことを保健婦経験のある教員が引き出し、学生一人一人の考えに対して、教員自身の看護についての考えを自身の保健婦としての実践経験を交えて伝える。そのことを通して、人々の日常生活の場で行われる看護活動の基本的考え方・方法について学生の理解を深めることを目的としたものである。また、他の学生と教員のやりとりから学生が学ぶことも期待した。

また、この取り組みは、各教員が、一人一人の学生と真剣に対峙する中で、保健婦の実践活動の中から看護として学生に伝えたいと思うことはどういうことかを意識化し、整理することにより、教員自身の「看護とは何か」の考えをより明確にすることも目指していた。

地域看護学教育において、保健婦の家庭訪問援助事例を用いたセミナー型学習は、施設内看護を基盤に形成された学生の看護イメージを広げ、生活の場で行う看護の特質、家族援助の基本を含む看護援助の基本を学ぶ効果的な方法であることはすでに報告されている^{1), 2), 3)}。しかし、従来の看護学教育では、基礎看護学として「看護とは何か」の学習をある程度終了した後看護学の各領域の学習が開始されるため、それらの報告は、学生なりに「看護とは何か」の考えを形成しつつある段階での学習成果である。「看護とは何か」を学びはじめたばかりの学生が、保健婦の家庭訪問援助事例から何を感じ、教員は、その学生の関心を基に、保健婦の活動を通して看護の何を伝えることができるのかは全く予測がつかなかった。

もとよりこの取り組みは、学生の関心と個々の教員の考えを基に展開されるため、グループにより取り上げる内容が異なる可能性がある。さらに今回は、学生の反応が予測できないことから、学生の状況に応じて、看護として大事と担当教員が判断した内容であれば、どのよう

な展開になっても構わないということで実施した。

以上から、今回の取り組みで看護について何を伝えることができたかを確認し、さらに、保健婦活動を素材に伝える「看護とは何か」の考えを整理したいと考えた。

II. 研究目的

「看護とは何か」を学びはじめたばかりの学生を対象に保健婦の家庭訪問援助事例を用いて行った少人数教育において、教員が伝えたこと、学生が学んだことを調べ、看護について何を伝えることができたのかを明らかにする。そのことを通して、保健婦活動を素材に伝える「看護とは何か」の考えそのものを整理したい。

III. 方法

1. 分析対象：2000年6月、本学1年次学生79名に実施した保健婦の家庭訪問援助事例を用いた少人数教育の授業における学生の事前・事後レポートおよび教員の記録。

レポートを分析対象とすることは、当該科目の単位認定終了後、学生に使用目的・意義と公表の際は個人が特定されない状態で行う旨を口頭説明し、了解と異議ある場合の申し出を求めた。学生から異議申し出はなかった。

2. 授業の実施方法

目的：援助事例を通して、人々の日常生活の場で行われる看護活動の基本的考え方・方法について理解を深める。
用いた事例：老年痴呆の高齢者を抱える家族への援助事例。援助開始から7ヶ月間の援助経過を記述。A3判横4列7枚。事例選定理由は、保健婦の判断の詳細な記述が可能、対象の変化により援助の成果が確認でき実施した援助が学生に見えやすい、事例の場面から保健婦の家庭訪問援助にかかわる基本的考え方・方法がある程度網羅して取り上げることが可能と考えられたためである。

学生の理解しやすさ、読みやすさを考え、訪問や電話、ケース連絡等のかかわりごとに、年月日、かかわった対象、そのかかわりの目的、状況、実施した援助、保健婦の判断・意図・感想、今後の方針の見出しを付け、可能な限り箇条書き的に整理し、時系列に沿って記述した。
事前準備・レポート：1週間前に事例を渡し、熟読し、この保健婦の援助で、①印象に残った場面、②わかりにくかったところを記入、持参を指示。

当日の運営：1時限90分間。学生を8グループに分け、教員1名が9～10名の学生を担当。教員は、学生の意見を引き出し、自身が看護として大事と考える考えを自身の実践経験を交えて解説し、学生に伝える。

教員事前申し合わせ事項：①学生の考えをありのまま引き出し、今の学生の興味・関心に沿って展開する。よって、取り上げる内容・展開は、各担当教員の判断に任せる。②学生とのやりとりを通して、教員自身も看護として大事と考える考え方・方法を整理する。すでに終了した概論の授業内容は各自確認するが、学生に伝えるべき内容について事前に詳細な合意はしない。

事後レポート：授業の終了時に①グループワークを通して、保健婦・士の援助について感じたこと・考えたこと、②残っている疑問、③今回のグループワークに関する感想・意見を記入・提出。

教員の記録：①学生から出された意見と担当者の対応、②グループワークを担当しての感想・意見を記入。

3. 分析方法：次の3つの側面から学生のレポートおよび教員の記録を分析する。

1) 学生が関心を向けた事例の保健婦の援助：事前レポートから「この事例の保健婦の援助で①印象に残った場面と②わかりにくかったところ」をそれぞれ分類整理する。これは、授業展開のもととなるものである。

2) 教員が自身の看護についての考えを伝えるために取り上げた事例の保健婦の援助と伝えたこと：教員の記録からそれぞれ分類整理する。

3) 学生が看護について学んだこと：事後レポートの「①グループワークを通して、保健婦・士の援助について感じたこと・考えたこと」と「②今回のグループワークに関する感想・意見」の中から、保健婦・士の援助について学生が感じたこと・考えたことであると各グループ担当教員が判断した記述を分類整理する。

1)～3)とも、記述の意味内容を読みとり、意味内容のまとめりで1件の記述とした。分類は、意味内容の似たものを集めて項目をつくった。分類・項目作成は、まず、この授業を主に企画した教員1名が全データの分類・項目作成を行い、各グループの担当教員7名が、各自担当学生の分類結果を見直した。さらに、地域基礎看護学概論Bの担当教員5名で、分類・項目を再検討した。

教員の意図的な働きかけとそれへの反応を分析するも

のであるため、教員自身が分類を確認し考えをより明確にすることで分類項目の適切さを確認する方法を採った。

また、どの程度の学生がその考えを持ったか、全グループで同じくその項目を扱ったかを知るために、その項目を記述した学生数とその項目を記述した学生がいたグループ数、扱った教員数も調べた。

IV. 結果

1. 学生が関心を向けた事例の保健婦の援助

1) 印象に残った場面

表1に示した。79名全員から812件の記述があった。

表1. 印象に残った場面

項目	※1	人(件)
保健婦の援助に関すること	8	79(736)
1. 対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法にかかわる記述場面	8	72(209)
1) 本人・家族の意向を聞き、それに沿った対応をしようとしている描写	8	53(70)
2) 家族の介護および本人へのかかわりを促す働きかけ	8	52(82)
3) 家族の主体的動きを引き出すことを目指した働きかけ	8	26(30)
4) 家族のやっていることを肯定した上で助言している	8	20(23)
5) 家族関係を強める働きかけ	3	4(4)
2. 援助関係・信頼関係づくりにかかわる記述場面	8	67(171)
1) 保健婦が本人・家族との関係をつくらせようとしている場面	8	65(164)
2) 援助関係・信頼関係を維持しようとしている記述	5	7(7)
3. 本人・家族とサービス資源との間に立つ対応の記述場面	8	53(76)
1) ヘルパーと本人・家族の間に立つ対応	8	51(69)
2) 家族と福祉課の間に立つ対応	4	4(5)
3) 家族とヘルパー・福祉課等との仲介役	2	2(2)
4. 家族員への援助の記述場面	8	50(67)
1) 家族員一人一人の健康管理への働きかけ	7	45(50)
2) 家族の負担への配慮	6	8(13)
3) 介護への助言	3	4(4)
5. 援助における情報収集とその内容につながる記述場面	8	40(71)
1) 保健婦が本人・家族の気持ち・考えや生活・関係等を捉えたり・判断したりしている記述	8	25(45)
2) 援助しながらの情報収集の方法についての記述	8	19(26)
6. 本人・家族の生活に合わせて援助をしようとしている場面	8	26(27)
7. 本人の食・排泄・清潔・環境への援助の記述	8	24(29)
8. 一人一人と関係を捉えるという家族の見方	8	14(17)
9. 福祉課・ヘルパー等他職種との連携	6	13(16)
10. サービス資源を紹介しようとする場面	5	13(13)
11. 季節に合わせた援助の記述	5	8(8)
12. 先を見通した対応の判断	5	7(8)
1) 今後を考えて対応を判断している記述	2	3(3)
2) 今後のケア体制の見通しを判断している記述	2	2(3)
3) 将来のことも考えて援助する	2	2(2)
13. 対象の力や可能性を捉え肯定的に理解をしようとする記述場面	3	6(7)
1) 本人・家族のよい面を捉えようとする姿勢の記述	1	4(4)
2) 本人の人間として健康な部分を捉えている記述	3	3(3)
14. 家族も援助対象として気持ちを聞き、相談にのっている	5	6(6)
15. 保健婦の驚き・不安・葛藤等内面の動き	4	5(5)
16. 毎回かかわりの目的と今後の対応を明確にする	2	4(4)
17. 自分の気持ち・考えを押しつげず相手の話を聞く・見極める	2	2(2)
本人・家族・関係者の状況	7	31(76)
1. 本人・家族の変化を示す描写	7	17(22)
2. 家族関係の悪さ・介護による家族状況の悪化の描写	4	10(20)
3. 本人の不潔さ・家族との関係の悪さの描写	4	9(15)
4. 家族が介護に取り組もうとしている状況の描写	6	8(8)
5. 本人が礼を言うなど人間らしい反応をしている描写	3	5(6)
6. 福祉課の不十分な対応を示す場面	5	5(5)
合計	8	79(812)

※1 記述した学生のいたグループ数

保健婦の援助に関すること17項目, 79名736件, 本人・家族・関係者の状況6項目, 31名76件に大別できた。

保健婦の援助に関することでは, 学生数件数とも最も多かったのは, 対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法にかかわる記述場面で, 72名209件の記述があった。これは, 5細項目に分けられた。本人・家族の意向を聞き, それに沿った対応をしようとしている描写53名70件, 家族の介護および本人へのかかわりを促す働きかけ52名82件の他, 家族の主体的動きを引き出すことを目指した働きかけ, 家族のやっていることを肯定した上で助言, 家族関係を強める働きかけであった。

次に, 援助関係・信頼関係づくりにかかわる記述場面67名171件が多かった。2細項目あり, 保健婦が本人・家族との関係をつくろうとしている場面65名164件と援助関係・信頼関係を維持しようとしている記述であった。

次いで, 本人・家族とサービス資源との間に立つ対応の記述場面53名76件であった。3細項目あり, ヘルパーと本人・家族の間に立つ対応51名69件の他, 家族と福祉課の間に立つ対応, 家族とヘルパー・福祉課等との仲介役であった。

過半数の学生があげたものは, 以上の他, 家族員への援助の記述場面50名67件, 援助における情報収集とその内容につながる記述場面40名71件であった。これらは, 8グループすべてに記述した学生がいた。

本人・家族・関係者の状況に関するものは, 7グループに記述した学生がいた。本人・家族の変化を示す描写17名22件が最も多く, 次いで, 家族関係の悪さ・介護による家族状況の悪化の描写等であった。

2) わかりにくかったところ

表2に示した。60名の学生から10項目139件があげられた。全グループに何らかの記述をした学生がいた。

学生数件数とも最も多かったのは, 看護する際の考え方・方法にかかわる疑問31名38件で, 13細項目に分けられた。本人・家族の意思をどこまで確認・尊重するのか8名8件が最も多く, 次に, 保健婦の働きかけができていない家族員がいること, 家族への介入(援助・情報収集)の程度, 援助関係・信頼関係の意味・形成方法等であった。

次は, 排泄・清潔への援助, 本人の体調管理等6細項

表2. わかりにくかったところ

項 目	※1	人(件)
1. 看護する際の考え方・方法にかかわる疑問	8	31(38)
1) 本人・家族の意思をどこまで確認・尊重するのか	5	8(8)
2) 保健婦の働きかけができていない家族員がいること	5	6(6)
3) 家族への介入(援助・情報収集)の程度	3	5(5)
4) 援助関係・信頼関係の意味・形成方法	3	4(4)
5) 家族の介護へのかかわりをどこまで促すのか	1	3(3)
6) 家族を部屋に入れたい本人に保健婦はどうしてかかわれたのか	1	2(2)
7) ヘルパー導入後体調チェックを定期的に行うという判断はなぜか	2	2(2)
8) 訪問の間の家族の状況の把握方法	1	1(1)
9) 家族員一人一人とのかかわり方	1	1(1)
10) 嫁の介護への取り組みを促した援助方法	1	1(1)
11) 伝えてもらえないと予測されるのにあえて孫娘に嫁への伝言を頼んだ理由	1	1(1)
12) 家族に掃除を指示することは難しいのか	1	1(1)
13) 重病でない家族の検診結果をなぜ確認するのか	1	1(1)
2. 在宅療養を送る本人の日常生活の援助内容への疑問	8	25(32)
1) 排泄への援助	4	8(8)
2) 清潔への援助	4	5(5)
3) 本人の体調管理	2	5(5)
4) 環境整備(暖房)	2	5(5)
5) 食生活への援助	4	4(4)
6) 施設入所	3	4(4)
3. 基本的な用語・制度	5	14(15)
4. 事例の家族の介護にかかわる行動に関する疑問	4	11(13)
1) 家族の本人へのかかわりが積極的でないこと	4	8(9)
2) 入所申請を希望していたのに手続きに動かなかったこと	2	2(2)
3) 家族の経済状態	1	1(1)
4) ヘルパー訪問日を嫁が勘違いしたこと	1	1(1)
5. ヘルパーの導入にかかわる援助に関する疑問	7	8(12)
6. 保健婦の活動体制に関する疑問	6	8(10)
1) 家庭訪問業務に関すること	5	6(7)
2) 援助対象者の把握経路	1	1(1)
3) 他職種との業務の違い	2	2(2)
7. 本人・家族の現状に関する保健婦の状況判断への疑問	3	4(8)
8. 関係者(医師, 福祉課, ヘルパー, 看護婦)の対応に関する疑問	5	6(7)
9. 基本的な生活上の工夫の意味	2	3(3)
10. この事例のその後はどうなったのか	1	1(1)
合 計	8	60(139)

※1 記述した学生のいたグループ数

目を含む, 在宅療養を送る本人の日常生活の援助内容への疑問25名32件であった。

実施した援助に関することは, ヘルパーの導入にかかわる援助や本人・家族の現状に関する保健婦の状況判断への疑問もあった。その他, 基本的な用語・制度, 家族の行動や保健婦の活動体制に関する疑問等であった。

2. 教員が看護についての考えを伝えるために取り上げた事例の保健婦の援助と伝えたこと

1) 教員が取り上げた事例の保健婦の援助

表3に示した、学生の印象に残った場面から14項目、わかりにくかったところ5項目、その他1項目であった。

印象に残った場面は、まず、保健婦の援助に関することが11項目あった。保健婦が本人・家族との関係をつくろうとしているという援助関係・信頼関係づくりにか

かわる記述場面、本人・家族の意向を聞き、それに沿った対応をしようとしている描写等3細項目を含む、対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法にかかわる記述場面、ヘルパーと本人・家族との間に立つ対応等3細項目を含む、本人・家族とサービス資源との間に立つ対応の記述場面の3つは、全教員が取り上げていた。

家族員一人一人の健康管理への働きかけ7名、一人一人と関係を捉えるという家族の見方6名、家族の負担への配慮1名等家族への援助についても取り上げていた。

その他、本人・家族の生活に合わせて援助しようとしている場面、先を見通した対応の判断、季節に合わせた援助、援助における情報収集とその内容、福祉課・ヘルパー等他職種との連携も1～4名が取り上げていた。

本人・家族・関係者に関しては、本人・家族の変化等3項目を取り上げていた。

わかりにくかったところは、保健婦の活動体制、看護する際の考え方・方法、在宅療養を送る本人の日常生活の援助内容等を取り上げていた。

2) 教員が伝えたこと

表4に示した。教員が伝えたことは、13項目に分けられた。全教員が伝えていたことは、援助における対象理解、援助関係・信頼関係づくり、対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法、保健婦活動の方法・特徴の4項目であった。

各項目の細項目をみると、援助における対象理解では、全教員が伝えたものとして、対象の全体像を理解した上で対応があり、これは、家族全体を見る、気持ち・考えを確認する、先を見る等の内容を含んでいた。具体的な問題点について働きかけることを通して対象を理解し、問題解決につなげる等の援助における情報収集、家族関係、家族員一人一人を見る等家族を中心とした対象の見方も伝えていた。援助関係・信頼関係づくりでは、援助において信頼関係を築くことは大切等の信頼関係の大切さ、信頼関係は、援助としてかわりながらつくられていくといった信頼関係の形成過程等であった。対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法では、本人と家族の意思を尊重する、家族一人一人の気持ち・考えを捉えるといった対象の意思の尊重にかかわるもの、家族が主体となった問題解決の援助、家族関係への働きかけという家族援助の基本的考え方でもあるもの、できるこ

表3. 教員が取り上げた事例の保健婦の援助

項 目	※1
印象に残った場面	8
保健婦の援助に関すること	8
1. 援助関係・信頼関係づくりにかわる記述場面	8
保健婦が本人・家族との関係をつくろうとしている場面	8
2. 対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法にかかわる記述場面	8
1) 本人・家族の意向を聞き、それに沿った対応をしようとしている描写	6
2) 家族の介護および本人へのかかわりを促す働きかけ	5
3) 家族のやっていることを肯定した上で助言している	3
3. 本人・家族とサービス資源との間に立つ対応の記述場面	8
1) ヘルパーと本人・家族の間に立つ対応	7
2) 家族とヘルパー・福祉課等との仲介役	2
3) 家族と福祉課の間に立つ対応	1
4. 家族員一人一人の健康管理への働きかけ	7
5. 一人一人と関係を捉えるという家族の見方	6
6. 本人・家族の生活に合わせて援助をしようとしている場面	4
7. 先を見通した対応の判断	3
1) 今後を考えて対応を判断している記述	2
2) 将来のことも考えて援助する	2
8. 季節に合わせた援助の記述	2
9. 援助における情報収集とその内容につながる記述	1
援助しながらの情報収集の方法についての記述場面	1
10. 家族の負担への配慮	1
11. 福祉課・ヘルパー等他職種との連携	1
本人・家族・関係者の状況	4
1. 本人・家族の変化を示す描写	2
2. 家族関係の悪さ・介護による家族状況の悪化の描写	1
3. 福祉課の不十分な対応を示す場面	1
わかりにくかったところ	7
1. 保健婦の活動体制に関する疑問	6
1) 家庭訪問業務に関すること	3
2) 他職種との業務の違い	2
3) 援助対象者の把握経路	1
2. 看護援助の基本的考え方・方法にかかわる疑問	3
1) 援助関係・信頼関係の意味・形成方法	3
2) 家族への介入（援助・情報収集）の程度	3
3) 保健婦の働きかけができていない家族員がいること	1
4) 本人・家族の意思をどこまで確認・尊重するのか	1
3. 在宅療養を送る本人の日常生活の援助内容への疑問	3
1) 排泄への援助	2
2) 本人の体調管理	1
4. ヘルパーの導入にかかわる援助に関する疑問	1
5. この事例のその後はどうなったのか	1
その他	1
1. 事例についての感想・意見	1
1) 長かった	1
2) 登場人物が多かった	1

※1 それを取り上げた教員数

表4. 教員が伝えたこと

項 目	※1	項 目	※1
1. 援助における対象理解	8	5) 相手の動きを待つ, 見守ることも大切	2
1) 対象の全体像を理解した上で対応	8	6) 生活を変えるのは大変, がらりと変えるのは無理	2
(1) 家族全体, 家族全体の生活を見て援助していく	4	7) できるところから励ましながら, よいところを認める	1
(2) 試行錯誤しながら, 立ち止まりながら, 相手の気持ち・考えを確認して進めていく	3	4. 保健婦活動の方法・特徴	8
(3) 先を見た援助の必要性	3	1) 訪問以外にも活動がある	4
(4) 保健婦は, 本人・家族・環境を把握して考える	2	2) 保健婦の援助は時間がかかる	2
2) 援助における情報収集	6	3) 役場の代表として苦情にも対応	1
(1) 具体的な問題点について働きかけることを通して対象を理解し, 問題解決につなげる	4	4) 援助対象者の把握方法はいろいろある	1
(2) 突然訪問することで家族の自然な姿を見ることができるとも	2	5) 家族に関する情報を知ることから守秘義務の重要性	1
(3) 何度かかかわるうちに見えてくる	1	6) 訪問看護も保健婦の活動も看護であり, この事例の援助は看護として必要なこと	1
(4) 家族の情報は家族以外にも入ってくる. 守秘義務を守ること	1	7) 事例は架空ではなく, 実際の援助事例である	1
(5) 話を聞くことの大事さ・受け手にとって考えを整理する場となる	1	8) 保健婦活動は, 大変で引きずることもあるがその分やりがいがある	1
3) 対象の見方	5	5. 家族員一人一人の健康管理	6
(1) 家族関係を捉える	4	6. 他職種との連携	6
(2) 家族の歴史を知る	3	1) 保健婦は他職種とも連携して援助している	6
(3) 家族員一人一人をよく見る	3	2) 保健婦は家族を支援するヘルパーの活動にも責任を持つ	2
(4) 家族員一人一人を平等に	2	7. 援助対象	4
(5) 家族員一人一人の生活を具体的に捉える	2	1) 家族も援助の対象である	2
(6) 清潔の価値観は千差万別である	1	2) 担当地区の住民全員の健康に責任を持つ	2
2. 援助関係・信頼関係づくり	8	8. 家族介護の成り立ちと援助の位置づけ	3
1) 援助において信頼関係を築くことは大切	6	1) 介護は家族の日常生活の営みの中で行われるものであり, それを援助する	2
2) まず相手に受け入れてもらうことが必要	3	2) 保健婦が関われるのは, 家族の生活の一部である	2
3) 信頼関係は, 援助としてかわりながらつくられていく	3	9. 対象の自己決定を尊重する援助は重要である	3
4) 受け入れてもらうために, 援助者が自らの役割を伝えることが必要	1	10. 生活の営みに即した援助の方法	3
5) 保健婦を受け入れる側の立場になったらどう思うか	1	1) 本人の体調管理・排泄の援助に関すること	2
3. 対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法	8	(1) 体調管理の必要性	1
1) 家族が主体となった問題解決を援助する	6	(2) 失禁対策	1
2) 家族関係への働きかけ	5	2) 家族の生活に合わせて訪問日時を決定する,	1
(1) 第三者が入ることで家族の人間関係が変わるきっかけ	3	11. 問題点に優先順位をつけて援助計画を考える	2
(2) 本人と家族の間に立ち, 本人のことを家族に伝える	3	12. 利用できる資源, 利用方法を紹介する	1
3) 本人と家族の意思を尊重する	3	13. 次世代を担う若い人の介護へのかかわりの働きかけ	1
4) 家族員一人一人の気持ち・考えを捉える	3		

※1 その項目を伝えた教員数

とから励ましながらといったかかわり方等があった。保健婦活動の方法・特徴の細項目では、訪問以外の活動、保健婦の活動は時間がかかる、役場の代表としての対応援助対象者の把握方法といった保健婦活動の実際や公務員としての立場にかかわる内容があった。

半数以上の教員が伝えていたことは、以上の他、家族員一人一人の健康管理、他職種との連携がいずれも6名、家族、地域住民全体という援助対象が4名であった。

また、伝えた教員数は1～3名と少ないが、家族介護の成り立ちと援助の位置づけ、対象の自己決定を尊重する援助は重要、生活の営みに即した援助の方法、問題点

に優先順位をつけて援助計画を考える、利用できる資源、利用方法を紹介する、さらに、次世代を担う若い人の介護へのかかわりの働きかけといった世代を越えて地域生活の将来を考えた活動も伝えていた。

3. 学生が看護について学んだこと

表5に示した。79名全員の学生から467件あげられ、19項目に分けられた。最も多いのは、対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法57名98件であった。10細項目あり、家族自身による問題解決を支援する28名29件が最も多く、本人・家族の意思を尊重する23名25件、家族の力を引き出す働きかけ、本人・家族の気

表5. 学生が看護について学んだこと

項	目	※1	人(件)	項	目	※1	人(件)					
1. 対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法	1) 家族自身による問題解決を支援する	8	57 (98)	6. 援助者に求められる姿勢・視野・能力	1) 自分の言動の一つ一つに責任を持つ	7	22 (24)					
	家族のかかわりを促す, 最後は家族ができるように, 家族と一緒にケアを行う, 家族が介護の主体となることを促す, 家族自身による問題解決を支援, 家族が自然にかかわれるようにしている	8	28 (29)		2) 援助を根気よくゆっくり進めることが大切	4	7 (8)					
	2) 本人・家族の意思を尊重する	8	23 (25)		3) 広い視野と心, 柔軟な頭が必要	5	7 (7)					
	本人・家族の同意を得て行う, 本人・家族の意思を尊重する, 決定するのは本人と家族, 情報提供・提案により, 本人・家族の意志決定をサポート, 本人・家族の意思を尊重しつつ必要時介入する援助がすごい	8	23 (25)		4) 相手の意思を尊重し, まわりの意見を聞く姿勢	3	5 (5)					
	3) 家族の力を引き出す働きかけ	5	10 (11)		5) 自分で考えて行動する能力, 責任感, まめであること	1	1 (1)					
	家族のやっつけていることを否定せず, 認め, 肯定する, 家族の意識・意欲を変化させることが必要, 一人一人ができることを見つけ, 引き出す, 保健婦は, 家族が動ききつかけを作ることも大事	5	10 (11)		6) カウンセラーのような能力が必要	1	1 (1)					
	4) 本人・家族の気持ち・考えを確かめる	5	9 (10)		7) 1回1回の訪問のチャンスを有効に使うことが必要	1	1 (1)					
	本人・家族の気持ち・考えを確かめようとする, 家族全員の考えを聞く	5	9 (10)		7. 生活の営みに即した援助の方法	1) 本人・家族の生活に合わせた援助	7	17 (22)				
	5) 家族員間の関係をつなげる働きかけ	6	9 (10)			その本人・家族に合った方法を考える, それまでの家族の生活を大切に, 相手に受け入れられるケアを行う	7	13 (17)				
	家族の関係をつなげる役割を果たしている, 本人と家族の関係を大事にする, 家族全体で考えるようにしている,	6	9 (10)			2) 清潔保持の援助も大切	2	3 (3)				
6) 相手の行動を待つ援助も大切	1	5 (5)	3) 季節に合った過ごし方を考える	1		1 (1)						
7) 本人・家族のペースに合わせる	3	3 (3)	4) 精神的なケアも気を配っている	1		1 (1)						
8) 待つ援助には援助者側の準備が必要	1	2 (2)	8. 保健婦活動の特徴的理解	1) 長期にわたる地道な活動・根気のいる仕事		6	20 (20)					
9) 相手のよい面を伸ばす	2	2 (2)		2) 保健婦の活動は, 本人・家族・環境を含めたものである		4	5 (5)					
10) 本人が援助を求められるようにするのも援助	1	1 (1)		3) 保健婦と対象者・家族とのかかわりが理解できた		4	4 (4)					
2. 援助における対象理解	1) 対象の全体像を理解した上で対応	8		49 (73)		4) 家庭訪問以外にも電話, ケース連絡会などの活動がある	1	1 (1)				
	本人だけでなく, 家族の状況も把握して考え・判断・行動, 家族の状況・社会的状況など全体をみて考える・対応, 本人だけでなく, 家族・周囲も視野に入れた援助, 本人の性格を考えたケアが大切, 相手の思いを読みとり, 理解した上で改善していく, 先のこと考えた判断・援助	8		49 (73)		5) 保健婦は, 自分の活動環境をつくらなければならない大変	1	1 (1)				
	2) 対象の見方	8		15 (19)	6) 悩みや不満を言えない人への対応は大切だが, そういふ人を見つけたことが難しい	1	1 (1)					
	本人:日常生活の具体的な側面を捉えている, 本人のそれまでの生活・性格・経済などを捉える	8		15 (19)	7) 援助を要するが拒否する人にどのように対応するか大事	1	1 (1)					
	家族:家族の関係を捉えている, 介護する一人一人の考えが違う, 一人一人を対象と見たり, 家族というまとまりで見たりする, 一つ一つの家庭の状況を知ることが必要, 一つ一つの家庭が違うことを知る, 本人だけでなく, 家族も含めてみていく広い視野が必要	8		15 (19)	8) 生活に密着し, じっくりと人と向き合う仕事で難しい	1	1 (1)					
	家族介護:介護には家族の協力が不可欠, 家族介護の成り立ちを理解した	8		15 (19)	9) 継続的に患者をみるので責任が大きい	1	1 (1)					
	3) 対象の立場に立つという援助における基本姿勢	5		9 (9)	9. 保健婦の仕事が理解できた・イメージが変わった・驚いた	1) 保健婦の仕事が何となく理解できた	8	19 (20)				
	援助者の考え・価値観を押しつけない, 相手の気持ち・考えを聞く・考える, 援助者側から相手に近づく, 対象の立場に立つて考える, 相手のことを親身になって考える	5	9 (9)	2) 保健婦の仕事のイメージが変わった		8	14 (14)					
	4) 援助における情報収集の方法	4	6 (6)	3) 保健婦と家族の関係に驚き		2	4 (4)					
	本人・家族の状況を些細なことから読みとる観察力が必要, 突然の訪問により, 普段の生活実態を捉えることができる	4	6 (6)	10. 家族員への援助		1) 保健婦と家族の関係に驚き	2	2 (2)				
5) 情報収集の意味	3	4 (4)	1) 家族員一人一人の健康状態の把握・管理			8	17 (18)					
情報を得ることは, 対応する上で大切, 専門的客観的判断の重要性.	3	4 (4)	2) 家族の負担への配慮			7	11 (11)					
3. 援助関係・信頼関係づくり	1) 対象の関係・信頼関係づくり	8	37 (47)			3) 家族の負担への配慮	7	7 (7)				
	1) 本人・家族との信頼関係づくりが大切	7	19 (20)			11. 計画的な援助の重要性	4	13 (15)				
	2) 本人・家族に受け入れられることが大切	7	16 (17)			1) 援助計画の大切さ	3	11 (13)				
	3) 家族とコミュニケーションをとりつながりを深める	4	5 (5)			目的をもった活動を行う, 目的・実施・評価を通して援助を発展させていく, 計画的な援助の必要性, 問題解決までのプロセスが大切, 自分の援助を振り返ることの必要性	3	11 (13)				
	4) 受け入れられる状況を見極めて行動	1	2 (2)		2) 現状を把握し, 今困っていること, 1番にすることを考える	2	2 (2)					
	5) 自分の援助を家族がどう受けとめているかを捉える	1	1 (1)		12. 他職種とのかかわりの大切さ	7	14 (14)					
	6) 援助者の気持ちが相手に徐々に伝わっている感じ	1	1 (1)			1) 保健婦・家族・ヘルパーの情報共有の工夫が大切	4	7 (7)				
	7) 信頼関係をどう築くかがわかった	1	1 (1)	2) 他職種との連携が大切		2	2 (2)					
	4. 援助の難しさ	1) 家族への援助は難しい	8	28 (35)		3) 本人・家族・関係者等多くの人の考えを取り入れる	2	2 (2)				
		家族全員とかわる援助は難しい, 家族全体を看護するのは大変, 家族の中に入って援助するのは大変	8	28 (35)		4) 本人・家族・ヘルパー・保健婦の人間関係の大切さ	1	2 (2)				
2) 援助関係・信頼関係づくりの難しさ		6	10 (10)	5) 家族と関係者の協力の重要性		1	1 (1)					
本人・家族に受け入れてもらうのは大変, 本人・家族への踏み込み方が難しい, 信頼関係をつくることは難しい		6	10 (10)	13. 保健婦活動に感じた魅力		5	12 (14)					
3) 本人・家族の意向に沿った援助の難しさ		3	4 (4)			1) 保健婦の仕事に魅力を感じた	5	7 (7)				
4) 家族の協力への働きかけの難しさ		2	2 (2)			2) やりがいがありそう	2	3 (3)				
5) 本人の背景を理解することの難しさ		1	1 (1)			3) 未知の体験ができそう, 視野が広がりがそう	1	2 (3)				
6) 家族の気持ち・考えを聞くことの難しさ		1	1 (1)		4) 保健婦の活動の「自由さ」のようなものに魅力を感じた	1	1 (1)					
7) 地域によって施設等の状況が違い難しい		1	1 (1)		14. 看護職になる自分自身に向けて考えたこと	7	11 (12)					
5. 援助対象		1) 家族も援助の対象である	8			21 (25)	1) もっと勉強したい	4	5 (5)			
	家族も援助対象である, 援助対象は, 家族全体・全員である, 家族へのケアも大切, 家族への気遣いが必要	8	19 (22)			2) 相手の心情を理解し, 力になれるようになりたい	2	3 (3)				
	2) ヘルパーにも対応・援助していた	2	2 (2)			3) 自分にはできそうにない・不安になった	3	3 (3)				
	3) 保健婦の活動は, その地域で生活しているすべての人を対象	1	1 (1)			4) 早く現場に出たい	1	1 (1)				
	6. 援助者としての保健婦について感じたこと	1) いろいろな場での看護の考え方は共通している	8	79 (467)		15. 保健婦の活動は大変	6	8 (10)				
		1) 本人・家族を主体に考える	5	7 (7)			1) 保健婦の活動は大変	6	7 (9)			
		2) 自己決定を尊重する援助は重要である	1	1 (1)			2) 一筋縄ではいかない仕事	1	1 (1)			
		7. 保健婦の仕事の重要性・奥深さを感じた	1) 家族への援助から, 保健婦活動の重要性が理解できた	4			5 (5)	16. 対象者主体の考え方	5	7 (8)		
			2) 保健婦の仕事の奥深さを感じた	2			2 (2)		1) 本人・家族を主体に考える	5	7 (7)	
			8. 援助者としての保健婦について感じたこと	1) 援助者としての保健婦について感じたこと	3		5 (5)		2) 自己決定を尊重する援助は重要である	1	1 (1)	
1) 保健婦も迷いながら援助している				2	3 (3)		17. 保健婦の仕事の重要性・奥深さを感じた		4	5 (5)		
2) 対象の変化が励みになったと思った				2	2 (2)				1) 家族への援助から, 保健婦活動の重要性が理解できた	3	3 (3)	
9. いろいろな場での看護の考え方は共通している				1) 本人・家族を主体に考える	5				7 (7)	2) 保健婦の仕事の奥深さを感じた	2	2 (2)
				2) 自己決定を尊重する援助は重要である	1				1 (1)	18. 援助者としての保健婦について感じたこと	3	5 (5)
	10. 援助者としての保健婦について感じたこと			1) 援助者としての保健婦について感じたこと	3	5 (5)			1) 保健婦も迷いながら援助している		2	3 (3)
				1) 援助者としての保健婦について感じたこと	3	5 (5)			2) 対象の変化が励みになったと思った		2	2 (2)
				2) 対象の変化が励みになったと思った	2	2 (2)			19. いろいろな場での看護の考え方は共通している		2	2 (2)
		3) 援助者としての保健婦について感じたこと		3	5 (5)	8		79 (467)				
		4) 援助者としての保健婦について感じたこと		3	5 (5)	合計		8			79 (467)	

※1 記述した学生のいたグループ数

持ち・考えを確かめる, 家族の関係をつなげる働きかけ等で, 家族を単位とした援助の基本を多く含んでいた。

次いで, 援助における対象理解49名73件が多く, これは, 5細項目あった。対象の全体像を理解した上で対応29名35件, 対象の見方15名19件, 対象の立場に立つという援助における基本姿勢9名9件, 援助における情報収集の方法, 情報収集の意味等であった。この項目も, 一人一人を対象と見たり, 家族というまとまりで見たりするといった対象の見方のように, 家族を単位とした援助の基本的考え方を含んでいた。

次は, 援助関係・信頼関係づくり37名47件であった。7細項目あり, 本人・家族との信頼関係づくりが大切19名20件, 本人・家族に受け入れられることが大切16名17件といった信頼関係の大切さを述べたもの, 家族とコミュニケーションをとりつながりを深める等の援助関係・信頼関係の形成方法にかかわる項目等であった。

次は, 援助の難しさ30名38件であった。7細項目あり, 家族への援助は難しい13名16件が最も多く, 次いで, 援助関係・信頼関係づくりの難しさ10名10件の他, 本人・家族の意向に沿った援助や家族の協力を得ること, 本人の背景を理解することの難しさ等であった。

全グループに記述した学生がいた項目は, 以上4項目の他, 援助対象21名25件, 保健婦の仕事が理解できた・イメージが変わった・驚いた19名20件, 家族員への援助17名18件の3項目であった。

さらに, 自分の言動に責任を持つ, 広い視野と心等, 援助者に求められる姿勢・視野・能力22名24件, 本人・家族の生活に合わせた援助等, 生活の営みに即した援助の方法17名22件, 他職種とのかかわりの大切さ14名14件は, 7グループの学生があげていた。他, 計画的な援助の重要性が, 4グループから13名15件であった。

保健婦の援助に関することは, 仕事の理解・イメージの他, 保健婦活動の特徴の理解20名20件, 保健婦活動に感じた魅力12名14件, 保健婦の活動は大変8名10件, 保健婦の仕事の重要性・奥深さを感じた5名5件, であった。保健婦活動の特徴の理解では, 各1名1件~5名5件と少ないが長期に渡る地道な活動, 保健婦は自分の活動環境をつくらなければならず大変といった, 専門職として責任を持ち, 自ら創る仕事として理解したものを, 援助を要するのに拒否する人への対応や悩みや不満を言え

ない人への対応の大切さと難しさという地域の潜在ニーズへの対応を述べた項目, 生活に密着し, じっくり人と向き合う, 継続的に患者をみるので責任が重い等, 地区を担当し, 自立して援助に責任を持つ保健婦活動の特徴を捉えたもの等があった。

V. 考察

1. 看護について学生に伝えることができたこと

1) 看護職が対象とかかわる際に基本となること

対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法と援助関係・信頼関係づくりは, 看護職が対象とかかわる際の基本である。これは, 全教員が事例の援助から取り上げ考えを伝え, 多くの学生が印象に残った場面・学んだこととしてあげ, さらに, わかりにくかったところでも関心を示した。援助における対象理解もかかわりの際の基本であり, 全教員が伝え学んだ学生も多かった。また, 伝えた教員学んだ学生は少ないが, 援助計画の大切さといった看護の展開過程の基本や生活の営みに即した援助も伝えられていた。

2) 家族, 他職種, 地域へと広がる援助の視点

家族, 地域を対象とした援助, 他職種とのかかわりにも学生の学びは広がっていた。家族も援助の対象である, 家族員一人一人の健康管理, 家族の見方, 家族の関係をつなげる働きかけ等, 家族を単位とした援助は, 多くの教員が伝え学生もさまざまな項目から学んでいた。また, 他職種とのかかわりの大切さも伝えられていた。しかし, 全教員がサービス資源とかかわる場面を取り上げ, 他職種との連携を伝え, 多くの学生がヘルパーとかかわりある場면을印象に残ったとあげたが, 学びにあげた学生は多くなかった。さらに, 伝えた教員学んだ学生はごく僅かであったが, その地区に住む人すべてが援助対象という地域を対象とした活動についても伝えていた。

3) 看護職の責任性・自律性・社会的役割の拡大

伝えた教員学んだ学生はごく僅かであったが, 保健婦活動の特徴を通して, 悩みや不満を言えない人を見つけ出す, 自分の活動環境をつくるといった, ニーズを見出し, 社会の中で自らの役割を拡大していく活動, また, 長期にわたる根気のいる仕事, 継続的に患者をみるので責任が大きい等, 専門職として責任と自律性を持ち自立して活動する姿を伝えることができていた。そして, そ

のことが、具体的援助場面とともに、学生に保健婦活動の魅力と大変さを感じさせたのではないかと考える。

2. 「看護とは何か」を学びはじめた段階の学生の特徴

2・3年次生を対象とした取り組みの報告^{4), 5), 6)}と比較すると、学んだことの広がりと同様であり、学生の関心を基に幅広い学習を可能にする力があることを確認できた。しかし、学習の重点の置き方に特徴ありと考えられた。最も着目された対象の主体性・主体的問題解決を支える援助の方法、援助関係・信頼関係づくり、家族を単位とした援助は、2・3年次生でも同様に中心的学びであった。しかし、援助における対象理解は、2・3年次生では、援助方法の一部に少しく含まれていた。これらの項目を独立して扱うまとまりができたのは、対象の見方等看護の基本中の基本を伝えることが必要な段階のためと言える。また、今回件数が少なかった他職種へのかかわりや地域全体を対象とした看護は、2・3年次生では、サービスの質への言及や保健婦の地区活動に関する幅広い学びがみられ量質ともに広がりがある。学生の関心が、個や家族への援助に向いていることと援助の中でも着目しやすいためと考えられる。他職種や地域の広がり、教員が意識的に伝えることが必要であり、あるいは、今後の学習で強化することが必要である。

また、他学年と比較はできないが、援助する際の考え方や方法を最も多く疑問にあげたことは、学習初期の特徴と考えられる。同時に、それを基に看護の基本を伝える学習展開の可能性が示唆されたと考えられる。

3. 保健婦活動を通して伝える「看護とは何か」

1) 保健婦の援助を通して伝える看護の基本

保健婦の家庭訪問援助事例を用いた少人数教育において、看護職が対象とかかわる際に基本となること、家族、他職種、地域への視野の広がり、看護職の責任性・自律性・社会的役割の拡大といった、看護について基本的に理解を求めたい項目を伝えられたことを確認した。

さらに、保健婦の援助であるからこそ、以下の部分は、その意味が強調され、かつ本質にせまると考えられる。

まず、看護職が対象とかかわる際に基本となることでは、保健婦の援助は、要請がなくても相手の家庭に出向き受け入れられなければ開始できないため、対象との関係性が厳しく問われる。1年次生の病棟での基礎実習終了時の看護観を示した報告⁷⁾では、信頼関係や対象の主

体性の項目はみられなかったが、保健婦の援助は、対象者と信頼関係を築くとはどういうことか、対象者主体とはどういうことかを考えずには実施できないものである。

また、家族や他職種、地域へと広がる援助については、1年次生に看護学概論と保健論を同時受講させる試み⁸⁾や、入学直後の在宅や施設等での体験学習を通して、家族や地域への援助の視点を育む取り組み⁹⁾が報告されているが、今回、1事例への援助から、学生の視野は、家族や他職種、地域へと広がっていた。これは、世帯単位で地域を捉え、担当する保健婦の活動であるからこそ、個人を家族、社会の中の一人としてみる視点、さらに、家族を単位、地域を単位とした援助と重ねて伝えることができると考えられる。生活者である人間の支援とは、そのような広がりや厚みのある看護活動であることを学生に伝えるとともに、看護が支援する生活とは何かをさらに検討していく必要があると考える。

さらに、学生が、活動環境をつくと表現したように、常に人々の健康生活にかかわるニーズに基づき自らの役割を変化・発展させ、社会の中で役割と可能性を広げていく自立した専門職の姿を伝えることができると考える。

2) 今後さらに検討を要する予防活動と地区活動

予防活動と地区活動は、保健婦活動の中核であるが、今回学生に伝えたことでは、あまりふれられていない。

予防活動の項目立てはしなかったが、学生に伝えられた先を見越した援助や家族員一人一人の健康管理は、予防的な捉え方・活動と考えられる。また、教員が伝えた、次世代を担う若い人の介護のかかわりへの働きかけは、世代を越えた地域の将来を視野に入れた取り組みであり、これも先を見た予防活動と捉えられる。保健婦活動における予防は、疾病予防のみでなく、個人・家族・地域といった単位で人々の生活の営みの先を見越し、生活を豊かにする予防活動と捉えることができる。保健婦活動における予防の概念を再検討し、看護としてどのように伝えられるのか考える必要がある。

また、保健婦の個別家庭訪問援助は、常に地域全体を対象とした地区活動の中に位置づけられるものである。今後は、個別援助から地域全体へと広がる活動、地区活動を通して伝えられることも含めて、保健婦活動を通して伝える「看護とは何か」を検討していく必要がある。

VI. 結論

「看護とは何か」を学びはじめたばかりの学生に対し、保健婦の家庭訪問援助事例を用いた少人数教育において看護の何を伝えることができたかを明らかにし、そのことを通して保健婦活動を素材に伝える「看護とは何か」の考えを整理した。

看護職が対象とかがかわる際に基本となること、家族、他職種、地域へと広がる援助の視点、看護職の責任性・自律性・社会的役割の拡大について学生に伝えることができていた。保健婦活動を素材に伝える「看護」とは、援助基盤である対象者との関係性を厳しく問うものであり、家族・地域の中で生活する人を支える広がりや厚みのある看護である。そして、社会の中で役割を拡大していく自立した専門職の姿を描くものと考えられる。今後はさらに、看護における生活とは何か、保健婦活動における予防の概念の検討、そして、地域全体を対象とした活動を通して伝えられる内容を含めた検討を行い、引き続き「看護とは何か」の考えを整理していく必要がある。

引用文献

- 1) 渡辺裕子他：家庭訪問事例を素材とした公衆衛生看護学の導入教育の評価，日本公衆衛生看護教育研究会誌，4(1)；1-4,1994.
- 2) 安田貴恵子他：セミナー方式を用いた家庭で展開する看護の特質の教育方法，日本公衆衛生看護教育会誌，8(1)；6-10,1998.
- 3) 坪内美奈他：家庭訪問援助事例を用いた地域看護学の導入教育の方法，日本公衆衛生看護教育研究会誌，8(1)；1-5, 1998.
- 4) 前掲書 1)；3-4.
- 5) 前掲書 2)；7-10.
- 6) 前掲書 3)；3-5.
- 7) 石津みえ子：看護基礎実習における看護観の育ち「新鮮な体験」に注目した実習展開の試み，看護教育，36(3)；245-251, 1995.
- 8) 水谷聖子：看護実践に役立つ概念の形成を目指してグループ学習の内容と実際，日本赤十字看護短期大学紀要，9；251-265, 1998.
- 9) 菅原邦子他：基礎看護学教育における早期臨地体験実習の効果－看護に対する認識と看護婦のイメージの変化－，天使女子短期大学紀要，18；41-55, 1997.

(受稿日 平成13年2月23日)

"What is Nursing ?" The Opinions about Nursing that Were Taught to Students at the Initial Stage of Nursing Education Using a Case in Home Health Nursing by a Public Health Nurse.

Mitsuko Matsushita¹⁾, Hitomi mori¹⁾, Mina Tsubouchi¹⁾, Naomi Yonemasu¹⁾,
Kazue Miura¹⁾, Yasuko Ohi¹⁾, Ryuuko Iwamura²⁾, Yasuko Ishii³⁾,
and Mitsuko Kitayama⁴⁾

- 1) Community-based fundamental nursing, Gifu College of Nursing
- 2) Nursing management, Gifu College of Nursing
- 3) Nursing of children and child rearing families, Gifu College of Nursing
- 4) Community health nursing, Nagano College of Nursing

Abstract

The purpose of this study was to find what was taught about nursing in classes that included small numbers of students' group work about a home health nursing case by a public health nurse and to discuss what is nursing in the practice of public health nurses. The students were at the initial stage of nursing education. All of the teachers had experiences of working as public health nurses. In the class the teachers prompted students to express their opinions about the nursing care in the case studied and the teachers expressed own opinions about nursing based on their experiences.

The students' reports and the teachers' records in the class were analyzed. These contents were categorized. 1. Impressive scenes and incomprehensible scenes for students. 2. The nursing care in the case that teachers referred to in order to express their opinions and what they taught. 3. What the students studied about nursing.

Results: All 8 teachers discussed the following opinions; 1. Nursing care to support the establishing and the maintaining of the client's independence and problem solving by the clients, 2. Gaining the understanding of the client about the nursing care, 3. Nurse-clients relationships. Of the 79 students 72, 40, 67 students respectively chose numbers 1, 2, and 3 as impressive scenes. Of the 79; 57, 49, 37 students respectively chose numbers 1, 2, 3 as what they studied about nursing. Two teachers taught about the importance of care plans. Four students chose it as an impressive scene, and 13 students chose it as what they studied about nursing. Two teachers taught about nursing care based on the client's life style. More than 20 students chose it as an impressive scene, and 17 students chose this as what they studied about nursing. Furthermore, all teachers taught about family nursing. Students mentioned many scenes and opinions that included family nursing. Six teachers taught about the importance of collaboration with other health and welfare professions. Fifty-three students chose it as an impressive scene, and 14 students chose it as what they studied about nursing. A few teachers taught that all residents in the area are clients and one of the characteristics of public health nurse's practice is the long-term practice, A few students chose them as what they studied. Responding to latent needs, making an environment for practice, and heavy responsibilities of nursing were mentioned by one student each.

The following opinions about nursing were taught: The basis of nursing care; expanding the view about individuals, family, other professions, and community; responsibility, autonomy, and the expansion of the role in society of the nursing profession. These were important basic opinions in the understanding of nursing for the students. Furthermore, it was found that the students could learn many ideas about nursing and they could notice many important points by themselves even in the initial stage of nursing education. The basis of nursing taught by public health nurses were the following; 1. Nurse-clients relationships are sever, 2. The extent and overlapping nursing care for people in daily life, 3. Role models as independent nursing professions who expand their roles and possibilities in society.

Key words : Initial stage of nursing education, A case in home health nursing, Public health nursing, "What is nursing?"